



マラウイから学ぶこと

「人として、生きる・学ぶ・つながる・思いやることの大切さ」

広島県福山市立山野中学校 担当教科：社会科

亀山 聖一

◆実践教科：総合的な学習・道徳・特別活動 ◆時間数：8時間 ◆対象学年：全校、中学2年生
◆対象人数：全校10人、2年生4人

カリキュラム

◆実践の目的

- ・マラウイを実際に訪れた私自身が見聞して得た知識や感動を子どもたちに伝える。
- ・マラウイと日本の文化の特徴を衣食住の面から考え、そのちがいや共通点、問題点に気付く。
- ・世界の寿命の実態を知り、同じ地球に生まれながらにして、なぜそのようなちがいが生まれるのかを考える。世界にある様々な不平等の実態を知り、その矛盾と向き合うことの大切さに気付く。
- ・HIV／エイズについて知る。自分自身を知ることが他者を理解するために大切であることを学ぶ。
- ・国際協力、国際援助とは何かを考え、みんなにもできる支援の形を学ぶ。
- ・青年海外協力隊とはどんな活動で、隊員はどんな思いで活動をしているのか知る。
- ・マラウイの生徒の学ぶ姿を通し、学ぶことの本当の目的を考える機会とする。
- ・日本とは比べものにならないほど、貧しく苦しい生活を送るマラウイの人々の明るく朗らかな生き方から学ぶことはないだろうか？本当の豊かさや幸せって何だろう？モノがあるから幸せなのか？本当に大切なものって何だろう？自分のこれからの生き方を考える。

ココがすばらしい!

マラウイの人々を通して、「生きるとは?」「学ぶことの意味」など、これから進路選択を迫られる中学2年生に根源的な問いを発し、生徒自身が自分の人生を考える授業を展開した。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	国際理解って何だろう マラウイってどんな国?	・アフリカに対する「プラスイメージ」と「マイナスイメージ」を挙げて、意見交流を行う ・写真、映像を見てマラウイという国を学習する	・パワーポイント・地図 ・マラウイのお土産 ・ワークシート
2	お金の価値と貨幣の役割	・外国旅行に行くために必要なものを挙げる ・各家庭から世界の貨幣を持ち寄り、気づいた情報を交流する ・フォトランゲージで貨幣の価値の違いを考える	・パワーポイント ・マラウイ、他の国の貨幣 ・パスポート ・ワークシート ・写真、お土産
3	マラウイと日本の衣食住のちがい	・日本の文化（衣食住）について考える ・マラウイの生活品に触れ、マラウイの人々の生活を体験してみる	・パワーポイント・写真 ・ワークシート ・お土産（チテンジ、衣装、マラウイボールなど）
4	命の重みについて考える	・世界の平均寿命を表す地図から地域ごとの寿命の差や特徴をつかむ ・なぜこれだけの違いが生じるのか、その原因となることは何かを考える ・問題を解消できる手立てを考える	・世界の平均寿命の地図 ・ワークシート、学習資料（社会科3年生教科書から）
5	HIV／エイズとは何か? 国際援助について考える	・HIV／エイズの意味を正しく知る ・開発途上国のエイズ事情を学ぶ ・先進国である日本で急増していることを知る ・国際推進員の五十嵐さんのお話を聞く ・DVDを通して、自分達にもできる国際援助の具体的な方法を学ぶ	・学習資料（HIV／エイズ） ・DVD ・ワークシート

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
6 ・ 7	学ぶことの意味を考える 学べることは幸せなこと	・ マラウイの学校のようなす (DVD) を見て、日本との違いは何かを考える ・ マラウイの子ども達の学ぶことに対する真剣さやはじける笑顔の意味を考える ・ マラウイの生徒の意識調査の資料から学びの目的を読み取る	・ マラウイDVD (細田順子先生提供) ・ 写真 ・ マラウイの生徒の意識調査(資料) ・ ワークシート
8	青年海外協力隊とは？	・ マラウイで活躍する青年海外協力隊員のインタビュー映像を通して、その動機・仕事の中身や大変さ、喜びを知る ・ 日本の子どもへのメッセージから感じるものを話し合う	・ 学習資料 ・ DVD 2枚 「青年海外協力隊員(マラウイ)の活動」 山田耕平「ディマクコンダ」 ・ ワークシート

授業の詳細

1 時限目

国際理解って何だろう？ マラウイってどんな国？

- アフリカに対する「プラスイメージ」(ピンク) と「マイナスイメージ」(青)と思われることを、それぞれ2色の付箋紙に自由に書き出していく。『知ること』から国際理解がはじまることを教えたいと考えた【写真①】。

この学習を通じて、生徒の反応から感じた点は次の3点である。

- ① アフリカに対しての知識や情報があまりにも少ないこと
- ② プラスイメージは数少なく、画一的であること
- ③ マイナスイメージの方が圧倒的に多いこと。



【写真①】

どうして同じ外国の国なのに、アメリカやヨーロッパと違ってアフリカのことは知らないのか、考えさせた。

- 次に私が今夏訪問したマラウイという国についてパワーポイントを使ってプレゼンテーションした。お土産のマカダミアナッツを食べながら未知の国、マラウイのようすに興味深そうに見ていた。

生徒の感想

授業の中で発見したこと・学んだこと

- ・ エイズの人には約束ができないこと
- ・ 出会ったら握手をする
- ・ 日本人が思ったよりいた
- ・ サッカーが人気のスポーツ
- ・ マラウイではいつ死ぬかわからない
- ・ エイズ孤児の問題
- ・ 写真の子供達がすごく明るい
- ・ 子どもが水を取りに行く
- ・ 寝る時には蚊帳が必要
- ・ エイズであることを他人に言わないこと
- ・ マラウイはタバコや紅茶を輸出している
- ・ 多くの日本人がマラウイのために活躍していること
- ・ 手でご飯を食べる
- ・ 裸足で歩く

2 時限目

お金の価値と 貨幣の役割について考える

- 導入→言語技術(受け答え)を意識して、今自分が行ってみたい国名と理由を発表させる。
- 海外旅行に必要なものは何でしょう？
パスポートとお金という答え。実際に海外に旅行に行った生徒はいない。
持参したパスポートを見せ、何が記載されているかを確認させる。
- 各自が持参した世界の貨幣を紹介。
アメリカ・中国・ホンコン・マラウイ・南アフリカなどの貨幣を見ながら、どこかの国のものでどんな特徴があるかを話し合う。
- フォトランゲージ【写真②】
1枚の写真を見てわかることを話し合い、発表させる。



【写真②】

【資料】 マラウイと日本の経済格差

1年間の平均収入

日 本→約3,500,000円

マラウイ→約25,000円

※マラウイは日本の140分の1の所得しかない。

※1日当たり、約70円。

地方はもっと貧しい生活を送っている。

アメリカ\$ (1\$) = 日本円(1万円)として考え、それをマラウイの貨幣(クワチャ)に両替すると写真②のようになる。なぜこのような状況になってしまうのか、資料を参考にして考えさせた。

〈所感〉

なぜ、マラウイクワチャに両替するとあんなにたくさんの札束になるのかを理解させるのは難しかった。確かに年収の差からも圧倒的に日本にくらべマラウイは貧しい。どうしてもマラウイの貧しさばかりを強調する結果になってしまう。しかし、授業の中で生徒に見せた【写真③】は、本当の豊かさ・幸せとは何なのか考えさせられる。もらったメモ用紙1枚をうれしそうに握りしめ、何度も『ジコーモ (ありがとう)』という子ども達。只、その子ども達との出会い、感動を生徒にうまく伝えられないもどかしさを何度も感じた。



【写真③】

3時限目

マラウイと日本の衣食住のちがいを考える

- 日本の文化を外国人に紹介するつもりで日本の衣食住の特徴を考えてみよう。
- マラウイの生活をDVDで紹介する。マラウイから持ち帰った品々に触れながら、あれこれ考える。遠い国マラウイの人々の生活を身近に感じることができる。



【頭に乘せて物を運ぶって難しい!】



【チテンジ、うまく巻けるかな?】

- チテンジを巻いたり、マラウイボールに興味を持ち、マラウイの土産物を珍しそうに触っていた。お土産第三弾の『バオバブジャム』は不評だった。
- マラウイの食事の内容【写真④】や食べ方を教えた。手で食べることへの抵抗や偏見がある。けれども日本の食文化にも手で食べるものがあることを考えさせると、見方や捉え方が変わってくる。様々な角度から、他の国との共通点や相違点を考えさせることが大事であると感じた。



【写真④】

生徒の感想

- ・鳥は生きたまま足をしばっていたのでビックリしました。
- ・マラウイボールは自然のゴムなのにすいぶんはねることに驚きました。
- ・マラウイの衣食住の文化は日本と違う点がたくさんあった。けれども食べる前にお祈りをする(感謝し手を合わせる)ことや手で食べるなど、日本と似ている点もあった。

4時限目

命の重みについて考える

- 世界で一番平均寿命が長い国は？一番短い国は？世界の平均寿命はいくつだろう？クイズ形式で本時の授業の目的と内容を説明する。
- 世界の平均寿命を表す地図から地域ごとの寿命の特徴をつかませる。
- なぜこれだけの違いが生じるのか、その原因となることは何かをグループごとで考え、発表させた。



【意見をまとめ、わかりやすく発表】

生徒の感想

- ・ 子どもの出生率の問題
- ・ 戦争や紛争などの問題
- ・ 病気になっても十分な治療が受けられない
- ・ 食べ物が得られない
- ・ 満足な教育が受けられない
- ・ 発展の遅れている地域と進んでいる国の経済的な差

- 平等に生きる権利を奪っている現実を学習する。3年社会の公民の教科書(大阪書籍)を資料として使用した。
- 子ども兵士、人身売買、児童労働の現実を学ぶ。
- 子どもの権利条約の存在を知らせた。

〈所感〉

「同じ地球上に生まれながら、どうしてこんなにも命の重みに違いが生まれるのか？」難しいテーマの授業だった。1時間ではテーマが大きく難しいため、何をどのようにして気付かせたいのかを授業者がきちんとした見通しを持っておかないと方向がぶれてしまうと感じた。

寿命の違いを地図から読みとらせ、発表させることは良かったが、『貧富の差の原因』をグループごとで話し合い、その後にそれを解消するためにはどんな手立てが考えられるか、という本時の目標には到達できなかった。計画段階で授業内容が盛りだくさんすぎたと思う。

大阪書籍の社会科の教科書(3年公民)には非常に興味深い資料が掲載されている。今回の授業で使用した資料以外にも青年海外協力隊員の活躍の様子が掲載されていた。しかも、その国は「マラウイ」だった。こんなに身近にありながら…知らなかった。

生徒の感想

- ・ 3秒に一人が亡くなっていることが分かった。残念です。
- ・ 子どもが兵士をやっていることを知り、かわいそうだと思いました。
- ・ 貧しい国や戦争している国は、子どもを利用してしていると聞き、悲しいことだと思いました。
- ・ 日本でエイズが増加していることを初めて知った。
- ・ 先進国の中で日本は自殺者が多い国だと知って驚いた。

5時限目

HIV/エイズについて考える 国際援助について考える

- マラウイ訪問の際に訪れた、青年海外協力隊員(村落開発)の活動場所で購入した『絵はがき』【写真⑤】を使って授業をする。
日本の絵はがきとマラウイのものでは、どこがどのように違うのか？そしてこの絵はがきは、誰が何のために作ったものなのかを考えさせる。



【写真⑤】



【写真⑥】

- 前回の授業で、3秒に一人の命が失われている要因の1つとして、HIV/エイズのことに触れた。「HIV/エイズとは何か？」先進国ではロシアと並び増加傾向にある日本の状況を学ぶ。
日本でも今さかんに啓発運動が行われていることを教えた。ACのコマーシャルポスター【写真⑥】を使い学習。
- JICA国際協力推進員の五十嵐さんをお招きし、『私たちにもできる援助の形』について考える。五十嵐さん持参のDVD(JICA制作)を鑑賞し、お話をいただいた。

生徒の感想

- ・鍵盤ハーモニカや水着、ゴーグルを日本から送ってあげていた。それを笑顔で使ってくれている様子がうれしかった。
- ・エイズにかかっている人を助けるために自らの力で絵はがきを作るなどしてお金を稼いでいることはすごいと思った。
- ・1円を募金するだけでも妊娠中の女性に栄養を与えられることを初めて知った。
- ・エイズは『音の無い戦争』と言われている意味がよく分かった。



【学習の様子：五十嵐さんの話を聞く】



【「世界の笑顔のために」プログラムDVD鑑賞】

6・7時限目

学ぶことの意味を考える — 『学べることは幸せなこと』

- 学ぶために必要なものは何だろう？生徒に5つずつ挙げさせた。
「努力する力」、「勉強する意欲」、「効率の良さ」、「集中力」、「やる気」、「教科書」、「ノート」、「資料」、「筆記用具」、「机・いす」、「先生」など物質的なものと内面(精神)的なものの両面が挙げられた。
- マラウイで購入した教科書やライオンノート、ボールペンを手に取って見る。(紙質や教科書の特徴)
- DVD(5分)を使い、2つのことを主たる視点として鑑賞させ、学習した。
 - ①マラウイと日本の学校の違いや生徒の学ぶ姿を通して、何がどう違うのかを見つける、気付く。
 - ②学ぶ姿やインタビュー内容から、学びの本来の目的やマラウイの子どもの学びに対しての真剣さや笑顔の理由を考えさせる。

- 資料(マラウイの生徒の意識調査)を使い、マラウイの子どもの学ぶ目的や将来に対する考え方を探り、それと自分自身の今を比較しながら、考えたことを意見交流する。
- ・マラウイと日本の学校の制度のちがいを説明。
- ・様々な年齢構成や男女の人数のちがいに気付かせるための発問をし、生徒の答えに対しての切り返しの問いを投げかける。

生徒の感想

『なぜマラウイの生徒はあんなに楽しそうに、真剣に学ぶのだろうか？』

- ・自分の将来がかかっている。お金を稼ぎたいし、みんなの命を助けたいと願っている。
- ・勉強できるのは今だけかもしれないから(義務教育のうちにとという意味と、長く生きられない国だからという意味)。
- ・知らないことを知る、わかることの喜びを感じているから笑顔なのではないか。
- ・自分の人生を無駄にはしたくないから。勉強したくてもできる機会がないから。
- ・大人になって、自分のなりたいたいものになるために勉強が必要だから。



〈所感〉

やはり映像は説得力があるし、何と言ってもその場の雰囲気伝えることができる。

ただ、「勉強」と「学び」という言葉の持つ意味は違い、日本の子どもにとっての「学び」は「勉強」が大部分であり、その目的は進学などの近視眼的なものだ。しかし、マラウイの子どもの「学び」は「生きる」ためであり、学校は仲間と生きて学べる「喜び」を共有できる場である。そこまでのことに中学生として気付かせたいと授業前は考えていたが、難しかった。単純に「かわいそう」や「気の毒」的な他人ごとの視点ではなく、自分自身の学

びの姿勢を問い直す機会にする授業を目指したが、そういった深い気付きに到達するためには教師側の【発問】や【切り返し・問い直し】が大事であり、【多角的な視点】で物事を思考できる力も同時に育てておかないと困難なことであると痛感した。

6限目は担任をしている2年生の道徳の授業で実施。国際理解を深める(道徳の内容項目4-(10))ことを目的とし、7時限目は総合的な学習の時間として実施。扱う授業が違うため、学習指導要領を見ながら、設定目標を考え、内容も含め変えねばならない所が難しかった。マラウイ生徒の意識調査は非常に有効な資料だった。

マラウイの生徒にとって、学びの目的は「自分のため」という発想ではなく、「国のため」「貧しい人のため」「家族のため」という大きなものを目指していることに気付かせる事ができた。資料提供をしてくれた先生方に感謝の思いで一杯である。

8時限目

青年海外協力隊とは？ 彼らの活動やメッセージを見て感じること。

- 前回の授業の中で、一冊の本(「ほっとけない 世界の貧しさ」(扶桑社)を紹介し、全員に回覧した。一言ずつ感想を書いたものを導入の資料とした。
- この授業が今年度の国際理解教育の最後となるので、今までの学習のまとめをすることと同時に、今後は生徒一人一人が世界に対して関心を持ち、学習を深める意識を育てることを目的とした。
- 「青年海外協力隊」として、マラウイに対する援助のために活動をしている若者の活動の様子や思いをインタビューに収めたDVDを鑑賞し、学習した。山田耕平さんのDVD「ディマクコンダ」も使用。

生徒の感想

「青年海外協力隊員の活動や日本の子どもたちへのメッセージを見て」

- ・ 思いやりのある人間になることが大切だと思いました。
- ・ 人は助けたり助けられたりする関係なので、その関係を大切にしないといけないと思った。
- ・ マラウイの人を助けたいという気持ちで活動している。日本では当たり前に出ることがマラウイでは出来ないのだと言っていたところが印象に残った。
- ・ (活動をしている隊員を見て)かっこいい。優しくてすばらしい活動をしていると思った。
- ・ 自分は恵まれているんだと思った。隊員の人のような生き方は自分にはできないなあと思った。

成果と課題

《成果》

- ・ マラウイという国を通して、開発途上国の実態を考えさせる機会をつくることができ、国際理解や国際協力に対する興味・関心を持たせることができた。また、日本という国に生まれ、ごく当たり前のように暮らしている毎日がマラウイには無いことを知ることで、「生きる」ことの意味や「本当の豊かさや幸せ」とは何だろう、という深い問いかけができた。
- ・ 平均寿命や貧困・病気などの開発途上国の現実だけを突きつけられると、暗く沈んだ雰囲気の中での授業になりがちだが、マラウイから持ち帰った生活用品や土産に触れることで遠い国を身近に感じることができた。また、豊富な写真やビデオなどの映像は、授業者が伝えたいが、言葉ではなかなか表現が難しい感覚を生徒に理解させるのに大変役立った。音楽を上手に利用すると授業の雰囲気も良くなる。山田耕平さんの「ディマクコンダ」は好評だった。導入で何を使うかが重要である。
- ・ 厳しい現実の中で学び生きるマラウイの子ども達の姿を通して、自分の学びの姿勢や生き方を考える貴重な機会につながったのではないと思う。また、学習の中でマラウイ人々の温かさ・たくましさ・明るさ・まぶしい笑顔を通じて、他者理解を深める意識を育て、仲間や家族、周囲の人に対して思いやりや優しさを育てる機会になった。
- ・ 生徒たちは青年海外協力隊員や開発途上国で活動する人たちの存在をはじめ知ることができた。この授業がすぐ何かの結果として残るわけではないが、生徒に「世界の中の日本」を意識させ、将来は、世界に貢献できる日本人になって欲しいというメッセージを発信することができた。

《課題》

- ・ やはり、指導力不足、準備不足を痛感した。50分での流れを考えての授業展開ができなかった。連続しての授業が計画できなかったため、1回完結型の授業となった。
- ・ 少人数のため、生徒の反応を見ていて、授業がうまく進んでいるかどうか、授業として成功したかはっきりわかる。授業者の一方的な話しや発問の内容や意図がわかりにくいと授業がうまく展開せず、生徒の反応も悪かった。活動や出前講座などの外部講師を積極的に取り入れる等、さらに授業の研鑽が必要であると感じた。
- ・ 自分自身がマラウイで見たこと、感じたことをどうやって伝えるのかを十分にまとめ切れていなかったことや国際理解教育を十分に理解できていなかったことが一番の課題である。どうしてもマラウイで見たもの聞いたこと感じたものをダイレクトに伝えようとしすぎてしまった。開発途上国の貧しさや悲惨さを強調してしまう結果になったのではないだろうか。もっとわかりやすい内容と表現を心掛け、テーマをしぼり、子どもの活動を取り入れ、子ども自身が発見や気付きを持てる楽

しい授業を展開できるように、今後も工夫していきたい。国際理解教育の教材はどこにでもあるのだと思った。

- ・今年、私自身の強い要望（海外研修を経験したことにより）で総合的な学習の時間を年度途中から7時間確保できた。来年度以降、学習指導要領の改正に伴い、時間数の確保が難しくなる。

国際理解教育の意義をすべての教員に認知してもらうことや他の教員も実践するしるみを整えなければ、難しくなる。

- ・今年の世界のことに関心を持たせ、自分に何ができるか、という問いを持たせることを目標にした。知識を持たせるだけで終わらず、行動や意識の変革に発展させなければならない。

- ・Googleや鍵盤ハーモニカを贈る援助の様子を見て子ども達は「自分にもできる、してみたい」という気持ちになったようである。次年度以降は、具体的な国際貢献や援助を形として作り上げていきたい。

参考資料

【書籍】

- ・ほっとけない世界のまずしさ編（2006）「ほっとけない 世界のまずしさ」扶桑社
- ・「中学校3年生社会科公民教科書」大阪書籍
- ・林達雄著（2005）「エイズとの戦い～世界を変えた人々の声～」(岩波ブックレット)654) 岩波書店

【映像】

- ・山田耕平（2006）「ディマクコンダ」
- ・JICA制作「世界の笑顔のために」プログラム

【インターネット】

- ・WHO「世界の健康レポート2006」<http://www.who.or.jp/indexj.html>
- ・AC（日本公共広告機構）「エイズ検査の促進」<http://www.ad-c.or.jp/campaign/work/2007/>

別添資料

- 1 「国際理解教育3時限目・授業指導案」(P.41)
- 2 「国際理解教育7時限目・ワークシート」(P.42)



＜国際理解教育3時限目・授業指導案＞

亀山 聖一

1. 実施時における教育課程上の位置づけ
総合的な学習の時間(※当初の年間指導計画には位置づけていない)
2. 日 時：2008(平成20)年9月18日(木) 6校時(14:35～15:25)
3. 場 所：理科室
4. 主 題：マラウイの生活を知る②「マラウイと日本の衣食住のちがいを文化について考える」
5. ねらい
 - (1) マラウイの生活風景を写した写真から、マラウイの生活への興味・関心を持たせる。
 - (2) それぞれの国の衣食住の習慣から日本とマラウイの生活のちがいと共通点を考えさせる。
 - (3) それぞれの国には独自の文化が形成されている。それはその国の風土と長い歴史と伝統から生まれたものである。日本の文化を大切にすると共にマラウイや異国の文化を理解・尊重する気持ちを育てたい。
6. 準備物
 - ・チテンジ ・箒 ・マラウイの生活風景の写真(スライド) ・マラウイの衣装
 - ・マラウイの絵ハガキ ・タライとバケツ(中に10kg程度の重さの荷物を入れる)
 - ・ワークシート(別紙) など
7. 指導に関する評価
 - (1) 日本人・日本という国の衣食住授業の内容に興味・関心を持ち、日本と他の国とのちがいを考えようとしたか。
 - (2) 言語技術(受け答えの技術・情報を正しく分析する技術等)を活用し、論理的に物事を考えようとしたか。
8. 指導過程

学習内容・学習活動・留意点など

◎導入

★発 問：「【日本の衣食住】の特徴を挙げてみよう！」

言語技術：受け答えの技術 ※他のグループは補足の意見を発表する。

☆活 動：3つのグループに分かれ、衣食住の特徴を話し合いまとめる→代表が前に出て説明する。

◎展開

★発 問：「次の5種類の写真を見て、日本とのちがいを探しましょう。」→気付いたことを発表

1種類目「マラウイの人の服装」 2種類目「マラウイの食事と食べ方」 3種類目「マラウイの住居」
4種類目「マーケットの風景」 5種類目「マラウイの家族」

主題伝達「今日はマラウイと日本とのちがいについて、衣食住の文化を通して考えます」

☆活 動：【マラウイアンはチテンジをどのように使っているだろうか?】→実際にやってみる

★発 問：【手で食べる食事の仕方をどう思いますか?】→発表

☆活 動：【マラウイアンの荷物の運び方にチャレンジしよう!】→実際にやってみる

★発 問：【「文化」って何だろう?】【「文化」はどういう風に生まれ、守られていくのか?】→発表

◎まとめ

・ワークシート(別紙)に記入、合わせて自己評価も行う。

★発問：【マラウイの貧しさの原因はどこにあるのか?】

【どうして同じ人間として生まれながらこんな貧しい生活をマラウイの人々は送らねばならないのか?】

【マラウイや開発途上国の貧しさの原因はどこにあるのだろう。】→投げかけ

※次回の授業のテーマ【『マラウイの貧しさの現実』～児童労働～】

<国際理解教育7時限目・ワークシート>

目 標：世界の現実を知る・見る・聞く・感じる・行動することができる
主体的な自分になろう！

☆DVD（青年海外協力隊の人たちの活動のようす・思い）を見て

①彼らはその活動をするをなぜ選んだのか？（それはどこからわかるか？）

②彼らはどんな思いで活動に取り組んでいるのか？（どこからわかるか？）

③メッセージを聞いて、あなたは何を感じたか？（彼らの生き方をどう思う？）

★国際理解の中で、あなたが一番印象に残っているものは何ですか？その理由も合わせて具体的に書いてください。

★国際理解の授業は役に立ちましたか？あなたの自身の中で変わったこと・生まれたもの・気づいたものがありますか？具体的に書いてください。